

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	さくらの家流山
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	千葉県流山市鱈ヶ崎1311
記入者名 (管理者)	尾崎 由美
記入日	平成 21年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。・心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。・様々な機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。の三点を運営理念に掲げている。・「認知症があっても心は生きている」を合言葉に、ひとり一人と向き合う介護を心がけている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時唱和し日々ケアを行っている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進委員会を通し、地域の方々へ活動報告をしている。毎月ご家族へのホーム新聞として発行している。地域の消防団の方を含めて、防火訓練を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・毎日の散歩の際に、近隣の方々への挨拶を行っている。・清拭用布を業務用クリーニング店からわけていただいている。・買い物に行く店の人と顔なじみになっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・小学校の登下校見守りボランティアや運動会へ参加し小学校との交流を持っている。・職業体験授業の受け入れを行っている。・ホーム主催の秋祭りに運営推進委員の方が参加している。・地区社協主催演芸会に参加している。・自治会のクリーン作戦や総会への出席をしている。	○ 地元の行事等に積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	他事業所のショートステイ利用者と演芸などを一緒に楽しむ機会を持っている。	○	地域の高齢世帯や介護者の為の相談窓口を目指したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善部分は、計画を立てて早急に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動の報告や話し合いを行い、意見要望を伺って、できるだけ早急に実施できるよう心がけている。		・園芸ボランティアさんの導入・消防団との消防訓練の実施
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会に参加し、各ホームの問題点や要望等を話し合う機会を持っている。	○	今後担当者を招き、行事等に気軽に参加して頂ける様取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の講習会に参加している。利用者の中に成年後見制度を利用している方がいる。	○	今後とも、制度の理解に努め成年後見制度を利用している方の支援をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修にて学び、日々職員へ伝達し防止に努めている。機会があれば、一般職員の研修の受講に努めている。又、虐待防止マニュアルの作成をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、随時解らない事、疑問に関しては、マネージャー・ホームと連携をとり回答し、同意の下御入居頂いている。又、玄関などにも掲示している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも意見を頂ける様な関係作りを日々心掛けています。面会に制限はなく、いつでも外来者との接触ができる。市より派遣されている介護相談員の訪問も受け入れている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のホーム新聞で、入居者様の状態をお知らせしている。又、出納帳もコピーし領収書と共に毎月お渡ししている。</p>	<p>○ 御家族が参加できる食事会や祭りなどのイベントを通じて、グループホームでの暮らしぶりをみていただけるよう努めたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に重要事項説明書にて、GH内にご意見箱を設置している事をご家族へ伝達している。又、1年に2度各ご家族へアンケートを送付している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案に日常的に耳をかたむけ活かせる様心がけている。毎朝、夕礼時に必ず参加している。又、全職員対象の会議に参加し意見を聴いている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜間の急変時等は迅速に対応できる様体制を整えている。又、日中も人員を厚くし対応出来る様調整している。利用者様の状態変化に伴い、業務内容の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>経験が長い者やケアの資質が高い者を育てられる様、研修を持ち記録や申し送り等により、各職員が情報を共有し入居者様の状態を把握する様努めている。誰がケアしても同じケアができるよう情報を共有している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	今後、OB等を含め交流会などを積極的に行ってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、満所の時など、同社市内のグループホームに空室のある時は、そちらのグループホームをお勧めしたり、内容によっては他の介護サービスの情報を提供させていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に介護職員と共に御家庭を訪問し、御本人と直接話をしたり、どのような環境でせいかつしていたのか等を見せていただいている。御本人に施設の見学を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事も共に行う事でその方の力を最大限発揮して頂ける様働きかけている。一緒に台所に立ち味付けを教えてもらったり、戦争体験や昔の話を聞かせて頂いている。得意な事、趣味などを披露していただきお互いに学びあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	こまめに近況を御報告し、衣替えや行事参加の御誘いを行っている。通院の同行、食事の介助などを行って頂いている	○	今後、家族会等を持ち、ホームへの理解を深めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時、面会時等に随時生活背景を聞き取り理解に努め、そのニーズにあったケアを心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元自治会の総会に参加されたり、絵画教室の指導に通っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々、入居者様同士の関係の把握に努め、日常生活の中でお互いがその力を発揮し支えあえる様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	止むをえず退去される際等は、その後のご家族様と入居者様の方向性に配慮し退居時の支援を行う事を入居時に説明させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを大切にし、その方の思いの把握に努めている。又、家族からの情報や介護者が本人の立場に立って意見を出し合い、ニーズの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様等から背景を聞き取り、又、ケアを受けていた方等については、先方との情報の共有に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の全体の申し送りや、個人の記録で職員間の情報の共有を図り、昼夜問わず状況を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段のケアには、職員間での情報の共有は図れている。職員それぞれの意見も言いやすい環境になっている。	○	今後、家族 本人を含めたカンファレンス等を実施していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、現状に即した話し合いは行っているが、計画を作成するには至っていない。	○	今後随時、状況変化に応じた見直しを図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、又、申し送り等で共有している。又、記録 カンファレンスにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元消防団の協力を求め、安全性確保の支援をしている。又、月1回相談員を招き入居者様の傾聴をして頂いている。その他、園芸ボランティアさん、工作ボランティアさんの協力を得ている。小学校のお守り隊ボランティアに参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば、病院や福祉用具事業者の方などと連絡をとり、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の開催時、その中で意見を頂いている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医が居る際は、そのまま継続して頂き、居ない際は地域の往診を紹介している。受診ファイルを作り、スタッフ間での情報共有に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医は他のグループホームも受け持っている認知症の理解がある。又、その他の方の主治医も認知症への理解が深い(認知症外来をしている)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制による看護師が週に1度訪問し、入居者様の身体状況の把握をし、介護職員への指導や相談にあたっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御見舞いの際、病院より利用者様の様子を伺い、御家族とも情報の交換をまめに行うことで早期退院に向けての計画を進めるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応を今のところ行っていないが、利用者様の身体状況の変化に応じて御家族と話し合いの場を持ち、御家族の思い、事業所側の状況などをしっかり話し合っている。	○	方針や指針を示し、ご家族と共有したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度者に対する受け入れができない旨を御家族に伝え、対象の方には、その都度スタッフで話し合った内容を伝えている。重度になっても次の受け入れ先が決まるまで、できるかぎりの支援を行えるよう取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーを作成し、情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づき管理している。入居者様の個性に合わせた対応をしむやみに声を掛けたり周囲に気付かれることのない様努めている。又、わかりやすく穏やかに接するよう努めている。一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し一人の人間としての対応を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時や行事などの際、行きたい場所や、食べたい物を職員と共に決めている。又、生活介助の中でも自己決定のできる問いかけ、声かけをするようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重するよう心がけている。入居者に合わせ優先順位を、その日毎に考え生活している。	○ 普段の生活を重視している。強制ではなく、自ら声をかけてくれる関係作りをめざしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回程度、訪問理容を導入しており、適宜どんな髪型にしたいか等入居者様の希望にそえる様努めている。中には行きつけの理美容院へ行かれる方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、入居者様と共に配膳や片付けを行える様努めている。又、嗜好についても把握に努め、その方の好みの物を提供出来る様努めている。食材の購入からメニュー作り、味付けなど一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様の状況によるが、ご家族様や医師と話し合い、入居者様の希望にできるだけそえるよう嗜好品の提供を行っている。ライターは防火上、施設で管理している。受動煙の影響のないよう喫煙場所を決め換気に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間を記録し、排泄パターンの把握に努めると同時に、生活習慣の把握にも努め、それに合わせた声掛け、誘導を行っている。水分補給、食材の選択、医師と相談しながら必要に応じて下剤の調整を行い排便のコントロールに努めている。	○	自立されている方の排便パターンの把握に努めたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば、ほぼ毎日入浴できるようにしている。早朝、深夜については安全面等から行っていない。入浴嫌いな方も無理強いせず、御本人の意向にそった入浴を心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は極力、散歩やレクを入れながら日常生活を中心に活動している。但し、個人の生活リズムを考え、休息も取り入れ自然な流れを保っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中でその人の出来ることを見出し、食器を洗っていただく、掃除をしていただくなど日常生活や見守りボランティア、絵画教室の先生など自分の力を生かす支援をしている。	○	1週間に1回行っている工作ボランティアさんと作った物をギャラリーで展示する作品展を成功させ、継続したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、基本的にはホームで行っているが御家族と話し合い小額のお金を自己管理している方もいる。ホームの買い物時、レジで支払いをお願いする時もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご自分の買い物など目的を持って外出できるよう無理のないように調整して出かけるようにしている。又、その際は無理に行くのではなく楽しく行ける様働きかけている。一日の中で、中庭だけにでも出られる様、配慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節にちなんだ場所、地元の馴染みの場所などに出掛けたいが、御家族の参加は少ない。普段の会話から行きたい場所を聞くように努めている。	○	利用者と御家族の関係を深めるため、御家族との個別の外出をホームから働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば、いつでも使用できるようにしている。又、希望に応じスタッフルームで通話して頂く事も可能である。年賀状や手紙の代筆など、できるだけの支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の希望があれば快くお越し頂けるよう配慮している。笑顔での挨拶、茶湯の用意、フロアーや居室で気兼ねなく自由に過ごしていただけるように心がけている。スタッフも気さくに会話できるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について理解し、社内基本方針を掲示し拘束しないケアを実践している。拘束については、身体だけでなく言葉による拘束についても周知し、拘束のないケアに努めている。随時、職員を身体拘束廃止の講習に参加させている。	○	勉強会をもうけ拘束廃止に関して周知徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯、安全上内側を施錠しているが、いつでも自由に出入り出来る様になっている。居室に鍵はついてはいるが使用は個人の自由である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中必ず1名はフロアーに待機出来る様、業務分担を整えている。調理中でも見守れる様になっている。記録等の際には食堂のテーブルで行う等、場所にも配慮している。昼夜問わず居室に入る際は声を掛けてから入室する等プライバシーに配慮している。排泄介助等でフロアーを離れる際はスタッフ間で声を掛け合うようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所にて施錠の上保管している。ポット等 日常的に使う物に関しては、各入居者様が、いつでも使用出来る様配慮している。刃物については使用后、所定の場所に保管し針、ハサミについては数を把握し保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為の話し合いを常にスタッフが意識して行い、事故が発生した際は 事故報告書に記録し、事故に発展する可能性の事についてはヒヤリハットに記録し再発防止に努めている。報告書は一冊にまとめ職員全員が共有し、ミーティングの際に再確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡体制があり、フローチャートを用い対応できる様に努めている。又、常に目を通す様働きかけている。その他に勉強会を行い有事に備えるよう努めている。消防署の行う救命救急の講習を受講するようにしている。	○	救命救急の講習を定期的に受講していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	散歩の際、地域の方への挨拶を通してホームへの理解を働きかけている。運営推進会議の会員である消防団の方にも消防訓練に参加して頂き地域の方の協力を得られるようにしている。	○	今ある非常用備蓄品の他に、毛布、トイレ用品等も用意していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の説明で御家族にも理解を頂いているが、面会時等に御家族に最近の様子を伝え、些細なことでも気がかりなことが無いか伺うように心掛けている。又、小さな変化でも状況に応じて連絡する様努めている。	○	今後、対応策について御家族とも連携をとりリスク対応を行っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル確認を行い、少しでも変化がある場合ホーム長へ報告し記録に残し、全ての職員が把握できる体制が整っている。必要に応じ御家族への連絡を行っている。	○	医療連携の看護との密な連携をすすめていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に薬の種類を添付し服薬ごとに服薬表のチェックを行っている。服用時にはダブルチェックを行っている。薬の変更追加がある場合はその都度職員に申し送りをし、連絡ノートに記載しどのような作用があるのか伝達し、個人記録に記載している。事故が起きない様、服薬マニュアルの実施を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便に関して、できるかぎり把握できるように心がけている。適度な運動を促し、こまめに水分補給をして頂く事を心掛けている。医師への連絡・相談を行い、服薬の検討等を行っている。繊維質を多く含む食品やヨーグルトなど食事への配慮も考慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立している方には、自ら行ってもらい難しい方は介助し、出来る所は行って貰えるよう、入居者様の力を引き出せる様な働き掛けている。又、往診歯科医との協力体制もある。週2度、義歯消毒を行い、舌苔にも注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一般的な家庭の献立を中心に食事作りをしている。毎食、介護職員が摂取量を確認し、その状態に応じて量や形態など個別に対応している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防については、感染症マニュアルを設けそれについて、実施している。又、インフルエンザについては予防接種をに対応している。日頃から予防に努めスタッフ全員で取り組んでいる。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前には必ず手洗い消毒を慣行している。毎日使用する布巾、まな板等については毎日消毒している。食材については賞味期限を守り開封日を記載し開封後には早めに使い切るなどしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には草花を置き、明るい雰囲気作りをしている。道路脇、中庭に季節の花を植え、入居者様、ボランティアさん共に手入れをしている。	○ グループホームの玄関が分かりづらい為、早急に案内プレートを設置したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外からの自然の光と風を調整しながら生活している。職員は入居者様に配慮し大きな声を出したり、無闇な音を出さないよう気を付けている。フロアには皆で作成した季節感のあるカレンダーを貼っている。フロアに中庭の花を飾るなど緑を取り入れるようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	メインテーブルの他にサブテーブルを設け、利用は自由になっている。ベランダにもテーブル、イスを用意し自由に使用できるようにしている。	○ 構造上難しいが今後、1人になれるスペースを考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れたものや、大切なもの、思い出の品等持ってきて頂く様、ご家族様に説明し在宅時の生活を継続できる様配慮している。居室の清掃をスタッフと一緒にするなど愛着を持って頂くよう心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いがこもったりしない様、廊下、居室と適宜換気を行っている。又、入居者様の状態に合わせて、適時温度調節を行っている。(冬 22℃夏28℃)乾燥しやすい冬の時期は加湿にも気を配っている。なるべく自然の風を利用し気候の良い時期は窓を開けるなど対応している。アロマオイル等で嫌な匂いを消すこともある。	○	室内で喫煙した場合の換気を考えたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、浴室、トイレには手摺を設置しており、物干し等も入居者様に合わせて行える高さの物を用意している。又、浴槽内には滑り止めマットを敷く等工夫に努めている。階段の昇降のできない方用にエレベーターを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室等の表示は混乱や失敗を最小限にする様、目線に合わせた高さ等に配慮している。掃除機の取り扱いが分からない方には、ほうきを使って清掃していただくようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関ベランダにプランターを用意し、園芸等で楽しんで頂ける様にしている。ベランダに物干し場を置き入居者様が物干し等を行える様にしている。ベランダにはベンチやテーブルを置き、日光浴や憩いの場になっている。暖かくなると中庭の園芸で育てた花を摘んで生けて楽しむことができる。いも、ふき、みょうがが収穫できる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとりを受け入れて、寄り添う介護を目指します。
- ・一人ひとりを尊重し、安心して普通の生活を送ることで認知症の進行を遅らせます。
- ・快食・快眠・快便を目指します。